

令和 8 年度  
事業計画書

## 【目次】

令和8年度神奈川県内赤十字事業体系図	1
I. 日本赤十字社神奈川県支部	2
II. 横浜市立みなと赤十字病院	9
III. 秦野赤十字病院	12
IV. 相模原赤十字病院	15
V. 神奈川県赤十字血液センター	18
VI. 神奈川県内赤十字施設 予算概要	22

※予算概要などの金額表記について、1,000円未満の端数処理により合計があわない場合があります。

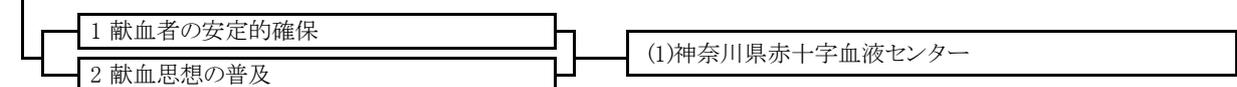
# 令和8年度 神奈川県内赤十字事業体系図



## 医療事業



## 血液事業



# I. 日本赤十字社神奈川県支部

令和9年に迎える日本赤十字社創立150周年、神奈川県支部創立140周年に向け、県民の皆様に赤十字の活動への理解と赤十字運動へより深く共感いただけるよう、人間のいのちと健康、尊厳を守る活動に取り組みます。

## 1. 令和8年度 事業計画

### (1) 災害救護事業

○災害時や感染症流行時に必要とされる救護を円滑に行うため、訓練、資機材の整備、人材育成、通信網の強化など、様々な状況に対応できる体制の強化に努めます。

○災害への備えを学ぶ「赤十字防災セミナー」を通して、自助・共助の考えを理解し、被害軽減を目的とした準備や災害発生時の応急対応など減災についての取り組みを普及します。

#### ア. 救護員・救護看護師の養成・強化

(ア) 本社・近隣支部との会議・研究会		9回
(イ) 関係機関が実施する防災訓練への参加	10回	84人
(ウ) 災害救護訓練の実施及び参加	5回	119人
(エ) 救護員養成研修会等への参加（本社等）	3回	7人
(オ) 救護員養成研修会等の開催	5回	150人
(カ) 日赤災害医療コーディネーターチームの養成	3回	3人
(キ) 特殊技能養成（フォークリフト特別教育、第三級陸特無線等）	2回	4人

#### イ. 救護資機材の整備

(ア) 中長期購入計画に基づく救護資機材の整備	救護活動用車両、放射線防護資機材	
(イ) 地区・分区への災害救援車配備	7地区・分区	7台
(ウ) 災害時通信網の強化整備（無線基地局の整備）	県内赤十字4施設	
(エ) 支部災害対策本部機能の強化		

#### ウ. 赤十字防災セミナーの普及・地域での取り組み支援

(ア) 赤十字防災セミナーの実施	50回	1,500人
(イ) 上記（ア）のうち新規カリキュラムの実施	6回	180人
(ウ) 地区・分区開催の強化	15地区・分区	

#### エ. 県内援護事業等の実施

- (ア) 火災・風水害等被災者援護事業
- (イ) 臨時救護事業

#### オ. 国内災害義援金の受付



## (2) 健康・安全事業

- 救急法等の講習（救急法・水上安全法・雪上安全法・健康生活支援講習・幼児安全法）の普及に努めます。
- 地域の声に寄り添った短期講習の導入を図り、講習をとおして、地域における健康・安全思想の普及に努め、赤十字の理解者・支援者増強を図ります。

### ア. 救急法等講習事業の推進

(ア) 救急法	基礎講習	165 回	3,130 人
	救急員養成講習	70 回	1,440 人
	短期講習	530 回	13,190 人
(イ) 水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	17 回	240 人
	救助員Ⅱ養成講習	2 回	10 人
	短期講習	80 回	2,230 人
(ウ) 健康生活支援講習	支援員養成講習	10 回	70 人
	短期講習	95 回	2,100 人
(エ) 幼児安全法講習	支援員養成講習	20 回	300 人
	短期講習	135 回	2,140 人

### イ. 健康・安全思想の普及を目的としたイベント等の開催

(ア) 赤十字救急法競技会	500 人
(イ) 救急法等に関連するイベントへの出展	適宜
(ウ) 赤十字講習 100 周年記念事業	1 回

### ウ. 講習普及体制の強化

(ア) 救急法指導員養成講習	1 回	30 人
(イ) 健康生活支援講習指導員養成講習	1 回	30 人
(ウ) 指導員研修会の開催・関係会議等への参加	10 回	420 人
(エ) 講習資材の充実・整備（心肺蘇生人形・AED の交換）	100 体	100 台
(オ) 講習システム運用の強化		

エ. 地区・分区で主催する講習会の増加促進

(ア) 特色ある短期講習の開催	10 回	180 人
-----------------	------	-------

オ. 他団体との協働事業の推進

(ア) 神奈川県警察、J R 東日本鉄道株式会社との協定に基づく救急法講習の開催	14 回	320 人
--	------	-------

(イ) 日本コープ共済生活協同組合連合会、一般社団法人神奈川県指定自動車教習所協会、独立行政法人都市再生機構とのタイアップ	5 回	120 人
---	-----	-------



(3) 国際活動

○日赤本社の取り組む国際救援・開発協力事業のうち、支部事業に関わりの深い防災・救急法普及支援事業を中心に活動資金の支援を行います。また、必要に応じて要員派遣、国際交流事業等に取り組みます。

ア. 国際救援・開発協力

(イ) 救急法普及支援事業（ラオス）	活動資金支援	2,000,000 円
(ウ) 保健支援事業（モンゴル）	活動資金支援	1,500,000 円
(エ) 防災強化事業（インドネシア）	活動資金支援	1,500,000 円

イ. 国際救援要員の養成

(ア) 国際救援要員・開発協力要員の養成

ウ. 安否調査

(ア) 紛争や自然災害等により家族と連絡が取れなくなった人々の安否調査業務の実施

エ. 国際交流事業

(ア) 国際交流事業

オ. 海外救援金の受付

(ア) NHK 海外たすけあいキャンペーンの推進

(4) 赤十字奉仕団・赤十字ボランティア

○赤十字ボランティア（赤十字奉仕団、赤十字防災ボランティア）が、地域に根差した活動やそれぞ

れの目的に応じた専門的知識・技術を生かした活動が展開できるよう、各種研修を充実させるとともに、赤十字ボランティアが主体的に活動できるよう支援します。

○地域のニーズに応える活動をはじめ、赤十字ボランティアとして奉仕団等の垣根を越えて連携し、情報交換や活動ができるよう交流を促進します。

ア. 地域赤十字奉仕団活動の推進

(ア) 地域赤十字奉仕団がある地区・分区への訪問	10 地区・分区
(イ) 地域赤十字奉仕団が参加するイベント・活動等への参画及び視察	10 団
(ウ) 地域赤十字奉仕団の予算書・精算書の分析	31 団
(エ) 地域赤十字奉仕団向け活動展開用資材等の作成・購入	2 種類

イ. 特別赤十字奉仕団活動の推進

(ア) 特別赤十字奉仕団が参加するイベント・活動等への参画及び視察	12 団
(イ) 特別赤十字奉仕団の予算書・精算書の分析	38 団
(ウ) 特別赤十字奉仕団向け活動展開用資材等の作成・購入	2 種類
(エ) 特別赤十字奉仕団への活動助成金の支出	38 団
(オ) 視覚障害援助関係赤十字奉仕団への資機材の貸与	8 団

ウ. 赤十字奉仕団相互の連携強化及び活動促進

(ア) 地域赤十字奉仕団・特別赤十字奉仕団・防災ボランティアの協働活動	3 回
(イ) 赤十字奉仕団神奈川県支部委員会・連絡協議会等の開催	14 回 275 人
(ウ) 本社・第2ブロック支部行事への参加	8 回 9 人
(エ) 赤十字防災ボランティアブロック連絡協議会への活動助成金の支出	8ブロック

エ. ボランティアの育成・支援

(ア) 奉仕団役員等向け研修会の開催	1 回 50 人
(イ) 奉仕団員向け研修会の開催	9 回 280 人
(ウ) 赤十字防災ボランティア養成等研修会の実施	2 回 25 人

オ. 災害時におけるボランティア活動の体制構築

(ア) 県社会福祉協議会と連携した赤十字ボランティアの活動体制構築にかかる打合せ等	2 回
(イ) 各市区町村社会福祉協議会が行う災害訓練への参加及び視察	3 回
(ウ) 災害時に赤十字ボランティアが使用する各種資機材の整備	15 品目



## (5) 青少年赤十字

○学校教育の中で、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、様々な活動を展開しています。

### ア. 青少年赤十字事業の普及・増強

(ア) 青少年赤十字活動にかかる各種通知・広報資材の県内全小・中・高等学校への配布	
(イ) 青少年赤十字登録校の定期訪問および各コンテンツの紹介等	100 校
(ウ) 健康安全プログラム推進のための指導員に対する説明会等の実施	2 回
(エ) 新規青少年赤十字登録校の獲得及び既登録校の更新の推進	150 校
(オ) 校種別校長会等での青少年赤十字についての PR 実施	15 回
(カ) 青少年赤十字指導者向け研修・講座の実施	7 回
(キ) リーダーシップ・トレーニング・センターにかかる検証会の開催	
(ク) リーダーシップ・トレーニング・センターのあり方にかかる検討会の開催	
(ケ) 各地区メンバーシップ・トレーニング・センター（MTC）への助成	
(コ) 地区指導者協議会運営費助成	

### イ. 青少年赤十字活動の推進

(ア) 青少年赤十字登録校での年 1 回以上のプログラムの実施	57 回
・健康安全プログラムの実施	30 回
・防災教育プログラムの実施	15 回
・その他の出前出張授業の実施（福祉教室・人権セミナー・献血セミナー等）	12 回
(イ) リーダーシップ・トレーニング・センターの開催	2 回

### ウ. 国際理解・親善

(ア) シンガポール赤十字社との青少年赤十字国際交流事業	1 回
(イ) 国際人道法研修会の実施	1 回
(ウ) 赤十字国際委員会（ICRC）と共同した国際人道法セミナー用スライド等の作成	



## (6) 赤十字思想の普及・広報

○リニューアルした展示室「かながわ赤十字情報プラザ」の周知と見学者獲得に努めると共に、県内で開催される市民まつり等の地域まつりへ赤十字ブースを出展することにより、赤十字思想や事業のさらなる普及に努めます。

○ホームページやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用し、赤十字事業について継続的に発信すると共に、メディア各社への情報提供を強化します。

### ア. かながわ赤十字情報プラザの積極的な活用

(ア) 団体見学の受け入れ	100件	2,000人
・県内地域団体(民児協・地区社協など)の見学受け入れ	45件	1,000人
・県内小中学校の団体見学受け入れ	10件	300人
(イ) 個人見学の受け入れ		400人
(ウ) 個人見学者に対するプレゼントキャンペーンの実施		2回
(エ) 情報プラザ奉仕団と職員との勉強会の実施		1回

### イ. イベントにおける赤十字思想の普及

(ア) 地域まつりへの赤十字ブース出展		10カ所
(イ) 「赤十字 de 自由研究”いのち”を守る体験教室」の実施	14回	450人

### ウ. 国際人道法の普及

(ア) 大学等における講義の実施		1回
------------------	--	----

### エ. オウンドメディアの活用

(ア) ホームページ・SNS等による情報の発信		160件
(イ) SNSを用いたスポット広告の実施		7回
(ウ) 動画を用いた広報の実施		40回

### オ. マスメディアの活用

(ア) プレスリリースの発信		36件
----------------	--	-----



## (7) 赤十字会員・活動資金の募集

○地域における赤十字事業をより活性化し、安定的な会費等収入の確保に繋げるため、地区本部・地区・分区との連携を強化します。

○新たな寄付の方法、遺贈等の積極的な広報をはじめ、法人会費等の協力の推進に努めます。

### ア. 赤十字運動月間の推進

(ア) レッドライトアッププロジェクトの実施	15 施設
(イ) テレビ、ラジオでの CM 放送	2 社
(ウ) 鉄道会社等へのポスター等掲示	3 社

### イ. 地区・分区における会費等協力の推進

(ア) 地区・分区における赤十字業務自己点検の実施とその結果の分析	全地区・分区対象
(イ) 自治会未加入世帯対策のための地区・分区へのヒアリング	全地区・分区対象

### ウ. 法人による会費等協力の推進

(ア) 赤十字会員の新規加入促進（神奈川県日赤紺綬有功会との連携強化等）	10 法人
(イ) ダイレクトメールによる活動資金の募集	6 回 199,100 通
(ウ) 寄付金付自動販売機の設置	103 台
(エ) 赤十字支援マークの利用	28 社

### エ. クレジットカードによる会費等の推進

(ア) クレジットカード寄付による新規赤十字会員の獲得	新規 700 人
-----------------------------	----------

### オ. 遺贈等による寄付の推進

(ア) 土業との連携	2 団体
(イ) 広報資材の作成	40,000 部

## (8) 看護師の養成

○県内赤十字病院において、必要な看護師を確保するための奨学金貸与事業に対して助成すると共に、災害救護・国際救援の分野等でも幅広く活躍できる看護師を養成するための研修や訓練に力を入れています。

### ア. 県内赤十字病院で活躍できる看護師の確保

(ア) 県内赤十字病院における奨学金貸与事業への助成（3 病院）	1,296 万円
----------------------------------	----------

## II. 横浜市立みなと赤十字病院

横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市の指定管理者制度に基づき平成17年4月に開院しました。地域の基幹病院として、「人道・博愛の赤十字精神のもと、患者の権利を尊重した良質で高度な医療を提供し、市民の健康増進に貢献する。」の理念に基づいて運営しています。



### 1. 令和8年度事業計画

#### (1) 収入確保

- ア. 紹介患者の確保
  - ・地域医療施設との連携強化、「強み」のアピール等
- イ. 救急患者の受け入れ
  - ・患者搬送サービス推進、脳神経系による集患強化等
- ウ. 患者サービスの向上
  - ・後払いシステム・予約システム運用等
- エ. PFM (Patient Flow Management) の円滑化
  - ・入退院支援センター機能体制強化等
- オ. 診療単価の向上
  - ・医療提供の拡充（エコー等の検査体制強化を含む）等
- カ. 病床の有効活用
  - ・「入退院コントロール11箇条」に基づく運用等
- キ. 手術室の有効活用
  - ・手術枠の効率的・合理的運用等



#### (2) 費用抑制

- ア. 材料費への対策
  - ・材料の切替（廉価化）、共同購入の推進等
- イ. 給与費への対策
  - ・業務の効率化・合理化による時間外勤務抑制等
- ウ. 委託費への対策
  - ・委託内容の見直し（仕様変更等）等
- エ. 設備関係費への対策
  - ・医療機器の整備の適正化・厳格化等
- オ. 経費への対策
  - ・水道光熱費の抑制等（LED 整備を含む）



### (3)その他

ア. 2026 年度診療報酬改定を踏まえた対応

- ・ 外部セミナー等を通じた情報収集及び体制整備等

イ. 医療 DX の推進

- ・ 医療提供の効率・質向上（業務用スマホの活用、AI による文書作成、バイタル連携、眠りスキャン等）
- ・ 患者等のサービス向上（予約システム、PHR の運用等）

ウ. 病床ダウンサイジング

- ・ 病床削減計画の検討

## 2. 病院概要等

### (1)病床数

許可病床	624 床
一般	584 床
精神	40 床

### (2)職員構成

	令和 7 年度（見込）	令和 8 年度（計画）
医師・歯科医師	251 人	251 人
看護師・保健師・助産師	677 人	691 人
薬剤師・医療技術職員	214 人	227 人
事務職員	174 人	180 人
その他（看護助手・調理師等）	54 人	55 人

### (3)入院・外来患者数

	入院		外来	
	令和 7 年度（見込）	令和 8 年度（計画）	令和 7 年度（見込）	令和 8 年度（計画）
年間延べ患者数	181,964 人	187,424 人	278,030 人	282,200 人
1 日あたりの患者数	499 人	513 人	1,149 人	1,171 人
病床稼働率	82.3%	84.7%	-	-
診療単価	98,516 円	101,001 円	19,376 円	19,867 円

### (4)診療科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、脳神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外

科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科 計 36 科

(5) 医療社会事業

項目	人数	
① 人間ドック	2,550 人	
② 母親教室	500 人	
③ 乳幼児健診	372 人	
④ 栄養相談	5,900 人	
⑤ 妊産婦健診	4,500 人	
⑥ 糖尿病教育入院栄養指導	25 回	150 人
⑦ 企業健診	130 人	
⑧ 一般健診	160 人	
⑨ ガン検診	5,600 人	
⑩ 横浜市健康診査	600 人	
⑪ 横浜市国保特定健診	1,200 人	
⑫ 被爆者健診	50 人	
⑬ 福島県民健康調査	6 人	
⑭ 特定保健指導	65 人	
⑮ 予防接種	271 人	
⑯ 救急法講習	※短期講習を含む	6 回
⑰ 健康生活支援講習	※短期講習を含む	2 回
⑱ こころのケア研修会	2 回	40 人
⑲ 地域の医療従事者に対する研修（みなとセミナー等）	12 回	500 人
⑳ 市民健康講座	6 回	630 人
㉑ 関節リウマチ教室	4 回	160 人
㉒ 成人喘息ぜんそく・アレルギー教室	3 回	120 人
㉓ 小児ぜんそく・アレルギー教室	3 回	150 人
㉔ 成人ぜんそく個別相談	19 回	38 人
㉕ こどものぜんそく個別相談	11 回	44 人
㉖ こどものアレルギー相談	6 回	24 人
㉗ 食物アレルギー研修	35 回	1,500 人

### Ⅲ. 秦野赤十字病院

秦野赤十字病院は、「愛・信・和」の基本理念を掲げ、「人道・博愛の赤十字精神のもと、患者の立場に立ち、信頼される医療を提供します」との診療ビジョンに基づいて運営しています。

#### 1. 令和8年度事業計画

##### (1) 地域医療への貢献

- ア. 地域医療支援病院としての体制充実
  - ・ 紹介、逆紹介率の維持・発展、新入院患者の確保
  - ・ 地域医療従事者対象の研修会の実施
  - ・ 紹介受入
- イ. 救急患者受入体制の強化
  - ・ 断らない救急（不応需率減少のための取り組み）
  - ・ 不応需のモニタリングの実施



##### (2) 医療機能の充実

- ア. カテーテル治療の強化
  - ・ アンギオ室患者受入の検証及び推進
- イ. 手術支援ロボット（ダヴィンチX）の運用
  - ・ 院内会議、ワーキングによる進捗管理の実施
- ウ. 骨粗鬆症の地域連携・拡充
  - ・ FLS（骨折リエゾンサービス）の整備・拡充
  - ・ OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）の整備・拡充

##### (3) 病院機能の強化

- ア. 病院経営の強化
  - ・ 経営改善計画書の策定、実施
- イ. 人材の確保、並びに教育体制の強化と働き方改革の推進
  - ・ 離職防止と退職予定者の早期確認、働き方改革の推進

## 2. 病院概要等

### (1) 病床数

許可病床	296 床	実働病床	230 床
急性期	249 床	急性期	183 床
地域包括ケア	47 床	地域包括ケア	47 床

### (2) 職員構成

	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)
医師・歯科医師	61 人	60 人
看護師・保健師・助産師	243 人	251 人
薬剤師・医療技術職員	66 人	69 人
事務職員	52 人	50 人
その他 (看護助手・調理師等)	29 人	27 人

### (3) 入院・外来患者数

	入院		外来	
	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)
年間延べ患者数	72,959 人	77,234 人	109,071 人	108,450 人
1 日あたりの患者数	199.9 人	211.6 人	450.7 人	450 人
病床稼働率	82.1%	92.0%	-	-
診療単価	66,395 円	71,000 円	15,724 円	16,000 円

### (4) 診療科

内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、形成外科、皮膚科、救急科 計 20 科

### (5) 医療社会事業

項目	人数
人間ドック	3,650 人
訪問看護	3,700 回 730 人
乳幼児健診	50 人
栄養指導	2,800 人
企業健診	190 人
一般健診	30 人
被爆者健診	5 人

福島県民健康調査		5 人
ガン検診		1000 人
成人（高齢者）健診		400 人
予防接種		850 人
救急法講習	2 回	40 人
健康生活支援講習	1 回	10 人
幼児安全法講習	1 回	20 人
腎臓病教室	2 回	80 人

## IV. 相模原赤十字病院

相模原赤十字病院は、赤十字の基本原則を尊重し安全で心温まる医療を行い地域に信頼され、愛される病院を目指します。

### 1. 令和8年度事業計画

#### (1) 診療 ～Treatment～

- ア. 健全経営への対応
  - ・ 医師の確保
  - ・ 新入院患者数の目標管理
- イ. 地域医療連携の強化
- ウ. 付帯施設事業の充実
  - ・ 訪問看護ステーションの強化
  - ・ 相模原市立3診療所の常勤医師の安定配置



#### (2) 災害救護

～Disaster Medical Assistance～

防災体制の強化・赤十字事業の普及として

- ア. 大規模災害発生に備えての体制整備
- イ. 総合防災訓練の実施
- ウ. 積極的なDMAT訓練等への参加



#### (3) 健康増進 ～Health Promotion～

- ア. 栄養相談、健康運動の指導など病気になる前のケア
- イ. 院外医療講演会の開催など

#### (4) 教育・育成 ～Education～

- ア. 後期研修医の受け入れ
- イ. 「北里大学総合診療医育成」の研修施設としての充実・強化
- ウ. 看護学生実習施設としての取り組み



## 2. 病院概要等

### (1) 病床数

許可病床	132 床
一般	92 床
地域包括ケア	40 床

### (2) 職員構成 ※常勤換算数

	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)
医師・歯科医師	28 人	31 人
看護師・保健師・助産師	122 人	122 人
薬剤師・医療技術職員	39 人	40 人
事務職員	60 人	60 人
その他 (看護助手・調理師等)	19 人	18 人

### (3) 入院・外来患者数

	入院		外来	
	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)	令和 7 年度 (見込)	令和 8 年度 (計画)
年間延べ患者数	34,329 人	39,055 人	78,033 人	82,770 人
1 日あたりの患者数	94.1 人	107.0 人	292.3 人	310.0 人
病床稼働率	70.9%	81.1%	-	-
診療単価	49,801 円	52,500 円	12,401 円	12,500 円

### (4) 診療科

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科 (R8.1 月から休診)、腎臓内科、外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、小児科、眼科、婦人科、精神科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科 計 21 科

### (5) 医療社会事業

項目	人数
人間ドック	510 人
訪問看護	4,000 人
乳幼児健診	600 人
小児健診	700 人
栄養相談	400 人
糖尿病教室	50 人
企業健診	1,570 人

一般・成人病健診	1,500人
ガン検診	6,050人
予防接種	1,300人
救急法講習	2回 30人
1日看護体験	10人
こころのケア研修会	4人

## V. 神奈川県赤十字血液センター

血液センターは、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」及び関係省令に基づき、国、地方公共団体と一体となり血液事業を運営しています。

### 1. 令和8年度事業計画

#### (1)採血業務

	令和6年度	令和7年度（見込）	令和8年度（計画）
全血献血	221,457人	228,353人	223,931人
成分献血（血漿）	80,556人	75,281人	84,422人
成分献血（血小板）	36,039人	43,583人	35,328人
合計	338,052人	347,217人	343,681人

#### ○令和8年度の取り組み

- ・年間1回の400mL献血協力者へ複数回献血を促し献血者を確保。
- ・学域献血会場の献血者へ複数回献血を促し献血者を確保。
- ・予約献血の更なる推進及び移動採血会場の予約率向上。
- ・献血ルームの近隣企業等へ協力依頼強化により献血者を確保。
- ・企業での年間献血実施回数が増回及び新規実施会場の開拓等を行い企業献血のすそ野を拡大。
- ・高等学校等での献血における事前の献血セミナー実施による生徒及び学生の献血参加意欲の向上。
- ・学生献血推進団体との連携や若年層が親近感を感じるプロスポーツチーム等との施策を実施。
- ・献血未経験者を対象としたキャンペーンの実施。

#### (2)供給業務

	令和6年度	令和7年度（見込）	令和8年度（計画）
赤血球製剤	224,250本	222,779本	223,884本
血漿製剤	70,263本	68,211本	70,431本
血小板製剤	53,686本	56,225本	55,388本
合計	348,199本	347,215本	349,703本

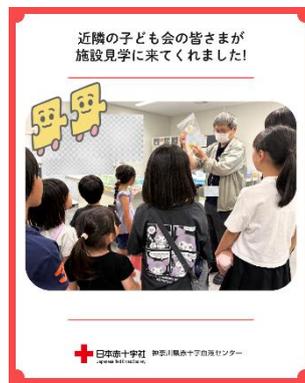
○令和8年度の取り組み

- ・医薬情報活動や神奈川県合同輸血療法委員会などを通じて需要動向を把握
- ・車両運行管理システムの運用
- ・災害対応訓練における血液製剤搬送訓練の実施

(3) 献血思想の普及

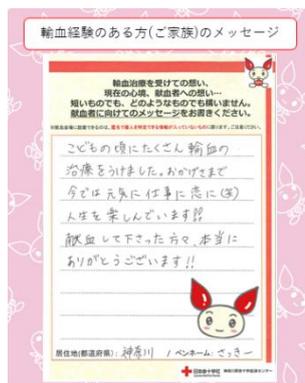
ア. 若年層への思想普及

- (ア) 献血セミナー・職業体験等の実施校拡大
- (イ) 疑似献血イベント・お仕事体験会の実施
- (ウ) SNS 及び地域メディアによる情報発信



イ. 広報活動の強化

- (ア) プロスポーツチーム等とのコラボイベント実施
- (イ) 輸血経験者の顔が見える広報の実施



○令和8年度の取り組み

- ・行政（教育委員会）及び県支部等と連携して、献血思想の普及や血液事業の理解を深める献血セミナーの実施。

- ・中学生の職業体験の受け入れや献血疑似体験等を実施して、献血可能年齢前の世代が献血思想に触れる機会を創出。
- ・SNSは献血に親しみやすい投稿や波及効果のある投稿を積極的に展開。
- ・献血未経験者への認知度向上を目的としてプロスポーツチーム等の異業種とコラボレーションしたキャンペーンを実施。
- ・輸血経験者の顔が見える広報を展開して、献血の先にある受血者の想いや輸血医療を連想させることでのリピーターや新規協力者を確保。

## 2. 施設概要等

### (1) 職員構成

	令和7年度（見込）	令和8年度（計画）
医師・歯科医師	23人	23人
看護師・保健師・助産師	153人	157人
薬剤師・医療技術職員	9人	7人
事務職員	217人	205人

### (2) 施設

ア. 神奈川県赤十字血液センター（横浜市港北区）

イ. 湘南事業所（厚木市）

ウ. 献血ルーム（7施設）

- ・横浜 SKY 献血ルーム（30 ベッド）
- ・横浜 Leaf 献血ルーム（20 ベッド）
- ・かわさきルフロン献血ルーム（20 ベッド）
- ・二俣川献血ルーム（7 ベッド）
- ・みぞのくち献血ルーム（10 ベッド）
- ・海老名献血ルーム（14 ベッド）
- ・クロスウェーブ湘南藤沢献血ルーム（12 ベッド）



(3) 車両

神奈川県赤十字血液センター	移動採血車	6 台
	血液運搬車	24 台
	広報車・その他	20 台
湘南事業所	移動採血車	5 台
	血液運搬車	15 台
	広報車・その他	13 台

## VI. 神奈川県内赤十字施設 予算概要（令和8年度）

### 1. 一般会計

施設名	令和7年度当初予算額	令和8年度当初予算額	増減額
日本赤十字社神奈川県支部	1,211,968千円	1,123,235千円	△88,733千円

※収入・支出同額

### 2. 医療施設特別会計

#### (1) 収益的収入

施設名	令和7年度当初予算額	令和8年度当初予算額	増減額
横浜市立みなと赤十字病院	24,901,277千円	26,184,690千円	1,283,413千円
秦野赤十字病院	7,702,413千円	7,779,078千円	76,665千円
相模原赤十字病院	3,814,264千円	3,739,084千円	△75,180千円
計	36,417,954千円	37,702,852千円	1,284,898千円

#### (2) 収益的支出

施設名	令和7年度当初予算額	令和8年度当初予算額	増減額
横浜市立みなと赤十字病院	24,860,301千円	26,269,207千円	1,408,906千円
秦野赤十字病院	7,900,862千円	8,046,257千円	145,395千円
相模原赤十字病院	3,970,285千円	3,964,022千円	△6,263千円
計	36,731,448千円	38,279,486千円	1,548,038千円

#### (3) 資本的収入・支出

施設名	令和7年度当初予算額	令和8年度当初予算額	増減額
横浜市立みなと赤十字病院	3,188,388千円	2,005,204千円	△1,183,184千円
秦野赤十字病院	622,126千円	499,992千円	△122,134千円
相模原赤十字病院	640,300千円	750,144千円	109,844千円
計	4,450,814千円	3,255,340千円	△1,195,474千円

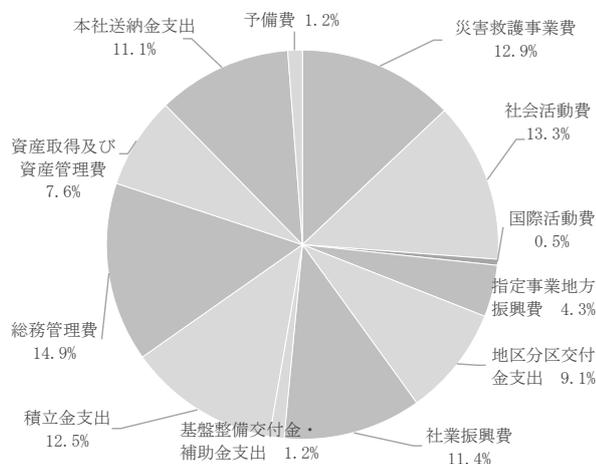
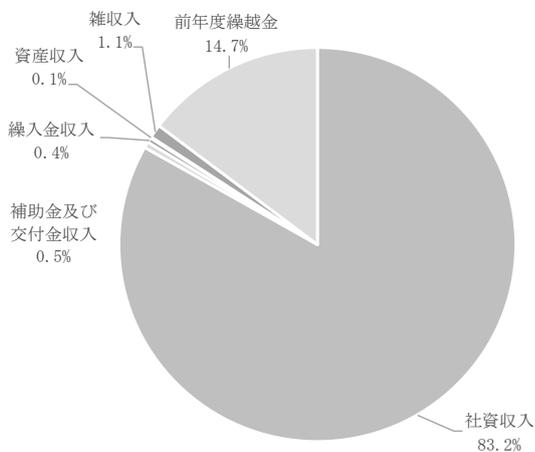
※収入・支出同額

# 1. 一般会計

## (1) 日本赤十字社神奈川県支部

収入 1,123,235千円

支出 1,123,235千円



収入	予算額 (千円)	主な内容
社資収入	934,200	会費、寄付金による収入
補助金及び交付金収入	5,870	本社からの交付金収入
繰入金収入	5,000	国際活動にかかる国際救援活動資金からの繰入
資産収入	1,431	物品（救護活動用車両）売却収入
雑収入	11,740	講習会等負担金
前年度繰越金	164,994	前年度からの繰越金
計	1,123,235	

支出	予算額 (千円)	主な内容
災害救護事業費	144,436	災害救護活動、救護員の訓練、防災教育授業等にかかる費用
社会活動費	149,371	救急法等の講習普及、救急法競技会、赤十字奉仕団活動の推進、青少年赤十字の普及活動等にかかる費用
国際活動費	5,202	ラオス救急法普及支援事業、モンゴル保健支援事業、インドネシア防災強化事業にかかる費用
指定事業地方振興費※	48,590	災害救護用医療機器の整備等にかかる費用
地区区分交付金支出	102,600	各市区町村における赤十字活動にかかる費用
社業振興費	128,232	赤十字思想の普及や会員増強運動、広報活動にかかる費用
補助金支出	13,060	看護師確保のための奨学金
積立金支出	140,575	施設整備準備資金、退職給与資金の積立金
総務管理費	167,935	職員の給与、社会保険、研修等にかかる費用
資産取得及び資産管理費	85,074	支部社屋の維持管理、修繕、損害保険料等にかかる費用
本社送納金支出	125,160	本社への繰出金
予備費	13,000	予備費
計	1,123,235	

収入支出差引額 (千円)	0
--------------	---

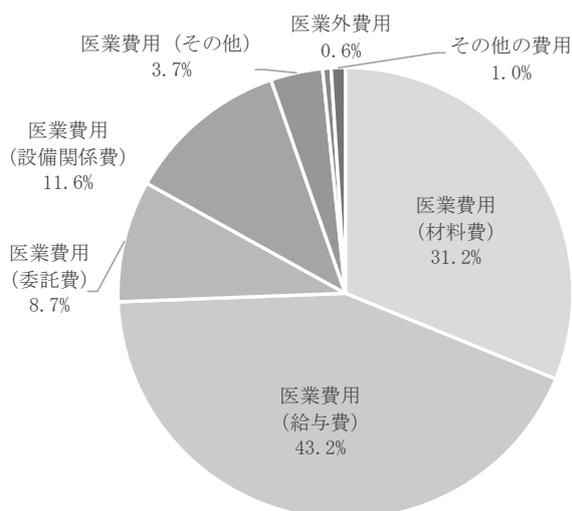
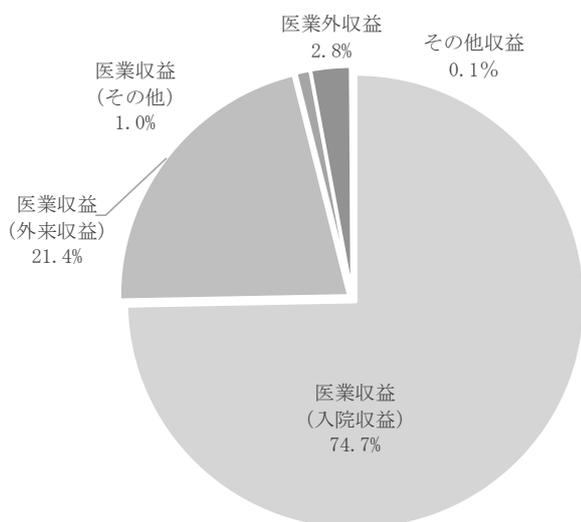
※国が認めた個人住民税控除となる寄付金を充当する事業

## 2. 医療施設特別一般会計

### (1) 横浜市立みなと赤十字病院

収入 26,184,690千円

支出 26,269,207千円



収入	予算額(千円)	主な内容
医業収益	25,452,466	診療行為などにかかる収益
入院収益	19,568,541	入院患者への診療行為にかかる収益
外来収益	5,606,592	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	277,333	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	725,416	国、県、市などからの各種運営費の補助にかかる収益
その他の収益	6,808	災害救護用資材を整備するために支部から得た収益
計	26,184,690	

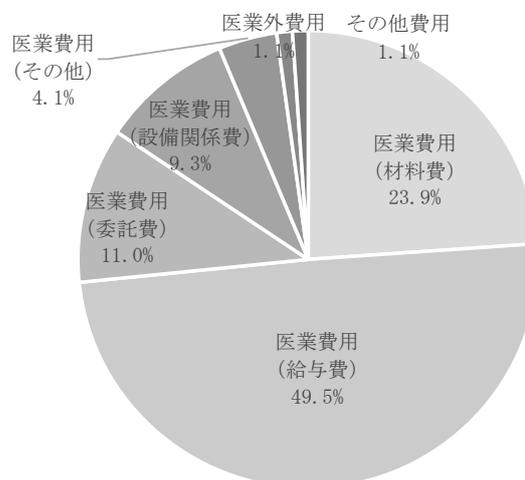
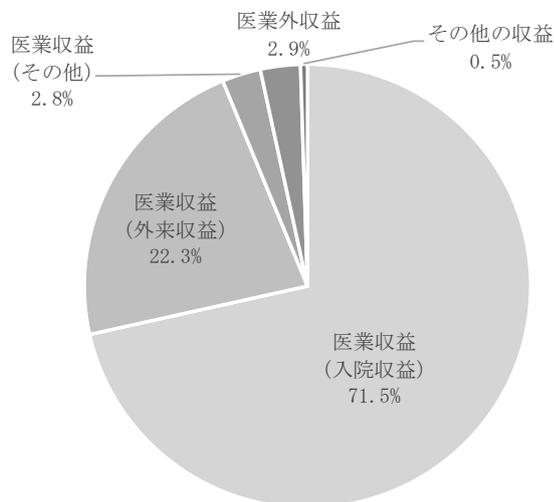
支出	予算額(千円)	主な内容
医業費用	25,841,050	診療行為などにかかる費用
材料費	8,188,058	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	11,355,072	職員の給与にかかる費用
委託費	2,272,549	業務委託にかかる費用
設備関係費	3,059,491	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	965,880	水道光熱費、賃借料、消耗品費など
医業外費用	162,662	支払利息、看護師の委託養成などにかかる費用
その他の費用	265,495	医療社会事業部門の職員の給与にかかる費用など
計	26,269,207	

収入支出差引額(千円)	-84,517	
-------------	---------	--

(2) 秦野赤十字病院

収入 7,779,078千円

支出 8,046,257千円



収入	予算額 (千円)	主な内容
医業収益	7,512,907	診療行為などにかかる収益
入院収益	5,563,679	入院患者への診療行為にかかる収益
外来収益	1,735,200	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	214,028	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	226,833	国、県、市などからの各種運営費の補助にかかる収益
その他の収益	39,338	災害救護用資材を整備するために支部から得た収益
計	7,779,078	

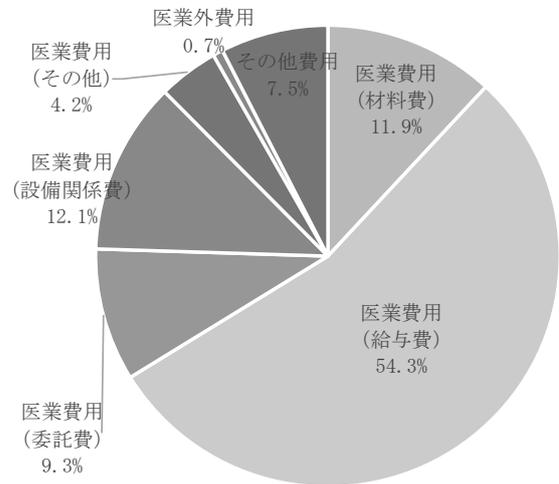
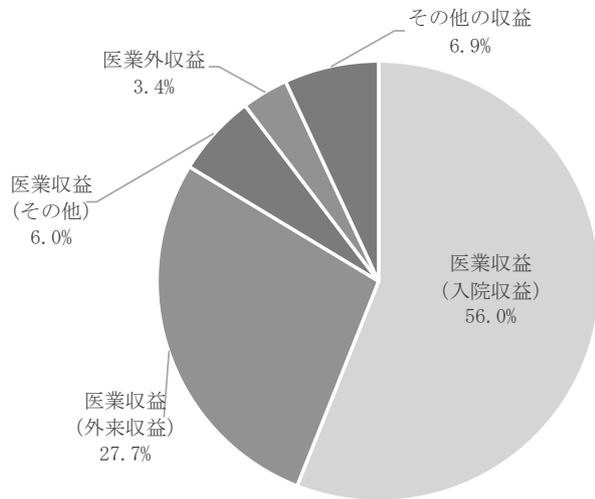
支出	予算額 (千円)	主な内容
医業費用	7,869,489	診療行為などにかかる費用
材料費	1,925,907	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	3,979,875	職員の給与にかかる費用
委託費	884,073	業務委託にかかる費用
設備関係費	752,869	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	326,765	水道光熱費、賃借料、消耗品費等
医業外費用	89,690	支払利息、看護師の委託養成などにかかる費用
その他の費用	87,078	医療社会事業部門の職員の給与にかかる費用など
計	8,046,257	

収入支出差引額 (千円)	-267,179	
--------------	----------	--

(3) 相模原赤十字病院

収入 3,739,084千円

支出 3,964,021千円



収入	予算額 (千円)	主な内容
医業収益	3,354,635	診療行為などにかかる収益
入院収益	2,093,940	入院患者への診療行為にかかる収益
外来収益	1,034,625	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	226,070	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	125,501	国、県、市などからの施設設備の補助にかかる収益
その他の収益	258,948	訪問看護ステーション、市内3カ所の診療所運営による収益など
計	3,739,084	

支出	予算額 (千円)	主な内容
医業費用	3,640,371	診療行為などにかかる費用
材料費	474,413	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	2,151,268	職員の給与にかかる費用
委託費	370,148	業務委託にかかる費用
設備関係費	478,564	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	165,978	水道光熱費、賃借料、消耗品費など
医業外費用	27,199	支払利息、看護師の委託養成などにかかる費用
その他の費用	296,452	訪問看護ステーション、診療所運営にかかる費用など
計	3,964,022	

収入支出差引額 (千円)	- 224,938	
--------------	-----------	--



